1. 総　括

１．霧島市の概況

本市は、鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し、北部は国立公園である風光明媚な霧島山を有し、南部は豊かで広大な平野部が波静かな錦江湾に接し、湾に浮かぶ雄大な桜島を望むところにあります。また、霧島山系から裾野、平野部を経て錦江湾まで流れる清く豊かな天降川、その流域に広がる豊かな田園、そして山麓から平野部まで温泉群等を有しており、海、山、川、田園、温泉など多彩で豊かな地域です。総面積約 603 平方㎞、人口約 12 万 2 千人の「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」として位置づけられています。

＜位　置＞

＜本支所別世帯数人口＞　　令和 7.4.1 現在

地 区	世　帯　数	人　口（人）	男（人）	女（人）
本庁（国分庁舎）	29,696	59,486	29,154	30,332
溝 辺総合支所	3,758	7,539	3,558	3,981
横 川総合支所	1,837	3,192	1,526	1,666
牧 園総合支所	3,302	5,514	2,615	2,899
霧 島総合支所	2,337	4,101	1,887	2,214
本庁（隼人庁舎）	19,484	38,526	18,568	19,958
福 山総合支所	2,288	4,000	1,973	2,027
合 計	62,702	122,358	59,670	63,077

※法改正により平成 24 年 8 月分から市内居住外国人も人口に含まれています。

２．霧島市消防局のあゆみ

（１）　消防局の発足経過

設立年月日	名　　称	構成市町	本部署所の設置場所	開設年月日
昭和 32 年 6 月 1 日	国分市消防本部	国分市	国分市向花 1551	昭和 32 年 6 月 1 日
昭和 44 年 4 月 1 日	国分市・隼人町消防組合	国分市 隼人町	隼人分遣所 隼人町内 1333 番地 5	昭和 44 年 5 月 1 日
昭和 45 年 5 月 29 日	国分市・隼人町消防組合	国分市 隼人町	消防本部（署）新庁舎 落成移転 国分市向花 862	昭和 45 年 6 月 17 日
昭和 46 年 4 月 1 日	国分市外 2 町消防組合	国分市 隼人町 霧島町	霧島分遣所 霧島町田口 495 番地	昭和 47 年 4 月 16 日
昭和 47 年 10 月 1 日	国分市外 3 町消防組合	国分市 隼人町 霧島町 牧園町	牧園分遣所 牧園町高千穂小谷 3282 番地 16	昭和 48 年 4 月 10 日
昭和 48 年 4 月 1 日	国分市外 4 町消防組合	国分市 隼人町 霧島町 牧園町 福山町	福山分遣所 福山町福山 5342 番地 4	昭和 49 年 9 月 3 日
昭和 48 年 9 月 1 日	牧園分遣所を北消防署に組織変更する。			
昭和 49 年 4 月 1 日	国分地区消防組合に名称変更する。			
昭和 62 年 12 月 1 日	住居表示の改正に伴い，国分市向花 862 を国分市中央五丁目 3 番 10 号に変更			
平成 11 年 4 月 20 日	新庁舎落成に伴い，国分市向花 1291 番地 1 に移転する。			
平成 17 年 11 月 7 日	市町合併に伴い国分地区消防組合を解散し，霧島市消防局に名称変更する。 国分市向花 1291 番地 1 を霧島市国分中央三丁目 41 番 5 号に変更			

（２）消防局の沿革

昭和 32 年６月１日　　国分市消防本部（署）を設置、署員消防長以下 16 名（内消防長、助役兼務）、庁舎は消防団本部庁舎を仮庁舎とし、消防ポンプ自動車（いすず 1957 年型Ａ１級）１台を配置する。

昭和 34 年９月１日　　専任消防長に肥後直之氏が就任する。

昭和 36 年４月１日　　消防長に今村清氏が就任する。

昭和 40 年１月１日　　専任消防署長を置く。

昭和 40 年４月１日　消防吏員５名を採用、合計 21 名となる。
昭和 40 年 10 月 28 日　水槽付消防ポンプ自動車（いすず 1965 年型Ａ級３ｔ積）を購入配置する。
昭和 40 年 12 月 21 日　消防無線（ＳＳＢ、３Ｗ）を購入、基地局を署に、移動局を消防自動車に配置する。
昭和 42 年７月５日　消防長・今村清氏退任。
昭和 42 年７月５日　消防長に加治木幸雄氏が就任する。
昭和 42 年 12 月 14 日　救急車（日産セドリック 1967 年型Ｂ級）を購入、消防署に配置、12 月 26 日に消+防無線（ＳＳＢ、３Ｗ）移動局を搭載する。
昭和 43 年１月７日　救急業務を開始する。
昭和 43 年７月 19 日　日本損害保険協会より消防車贈呈を受け、火災保険号「国分」と命名する。既存の消防ポンプ自動車を消防団敷根部へ配置替する。
昭和 44 年４月１日　国分市・隼人町により、消防一部事務組合を設立、国分市・隼人町消防組合となる。
昭和 44 年４月１日　初代組合管理者に国分市長・林昌治氏が就任。
昭和 44 年５月１日　組合消防長に中村清氏就任。同時に消防吏員 14 名、その他の職員２名を増員し、37 名となる。また、隼人分遣所（隼人町役場内仮庁舎）を開設し、署員 12 名、消防ポンプ自動車１台を配置する。
昭和 44 年 11 月 14 日　隼人分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（いすず 1969 年型Ａ２級 1.5ｔ積）を購入し配置する。既存消防ポンプ自動車は隼人町消防団嘉例川部に配置する。
昭和 45 年４月 15 日　隼人分遣所庁舎落成。４月 27 日移転する。
昭和 45 年５月 29 日　消防本部（署）新庁舎落成。６月 17 日移転する。
昭和 45 年 12 月７日　消防吏員５名を増員し、合計 42 名となる。
昭和 45 年 12 月 23 日　救急車（日産エコー1970 年型）を購入し消防本部（署）に配置する。既存救急車を隼人分遣所に配置し救急業務を開始する。
昭和 46 年２月１日　鹿児島地方気象台の委託により、農業気象観測を開始する。
昭和 46 年３月２日　消防吏員２名を採用し、合計 44 名となる。
昭和 46 年４月１日　組合に霧島町が加入。国分市外２町消防組合となる。
昭和 46 年４月 15 日　国分・隼人ライオンズクラブより、アクアラング一式、テント３張の寄贈を受ける。
昭和 46 年 10 月５日　霧島分遣所開設のため 11 名を採用。10 月 20 日に２名、12 月６日に１名を追加採用し、合計 58 名となる。
昭和 46 年 12 月４日　霧島分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（日産Ａ２級 1971 年型２ｔ積）を購入する。
昭和 47 年４月１日　霧島分遣所新庁舎落成。消防吏員 11 名を配置する。
昭和 47 年９月 20 日　消防吏員２名を採用し、合計 60 名となる。
昭和 47 年 10 月１日　組合に牧園町が加入。国分市外３町消防組合となる。
昭和 47 年 10 月２日　消防吏員 12 名を採用し、合計 72 名となる。
昭和 47 年 12 月４日　本署に水槽付消防ポンプ自動車（いすずディーゼル２ｔ積）を購入し配置する。
昭和 48 年２月 16 日　牧園分遣所に普通ポンプ自動車を購入し配置する。
昭和 48 年３月２日　消防庁長官より、竿頭綬を国分市消防団と合同受賞。
昭和 48 年４月１日　組合に福山町が加入。国分市外４町消防組合となる。
昭和 48 年４月３日　消防吏員 21 名を採用。
昭和 48 年４月 10 日　牧園分遣所庁舎落成。消防吏員を 11 名配置する。
昭和 48 年４月 11 日　消防長・中村清氏退任。
昭和 48 年４月 11 日　消防長・谷口純男氏就任。

昭和 48 年８月３日　消防長・谷口純男氏退任。
昭和 48 年８月３日　消防長・福留正男氏就任。
昭和 48 年８月４日　消防吏員２名を採用。
昭和 48 年８月 17 日　福山分遣所に救急車を購入する。
昭和 48 年８月 31 日　福山分遣所に普通ポンプ自動車を購入する。
昭和 48 年９月１日　機構改革を行い、本部に庶務課、警防課を設置するとともに中央署、北署の２署制となる。
昭和 48 年９月３日　福山分遣所新庁舎落成。消防吏員 11 名を配置し、業務を開始する。
昭和 48 年９月 11 日　北消防署に屈折梯子付消防ポンプ自動車を購入し配置する。
昭和 48 年９月 18 日　鹿県共済農業協同組合連合会より救急車贈呈を受け、北消防署に配置する。
昭和 48 年 11 月 10 日　消防吏員３名を採用。
昭和 49 年３月 10 日　警察との専用電話を設ける。
昭和 49 年３月 18 日　北消防署及び福山分遣所に無線基地局を設け、山間地等の難聴解消を図る。
昭和 49 年４月１日　国分市外４町消防組合から国分地区消防組合と名称を変更する。
昭和 49 年４月 15 日　消防吏員 10 名を採用。
昭和 49 年５月 15 日　消防吏員８名を採用。
昭和 49 年７月１日　姶良郡西部消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。
昭和 49 年 10 月１日　消防長は消防監となる。
昭和 49 年 10 月１日　北消防署に予防係を配置。北消防署管内の災害、火災予防を強化する。
昭和 49 年 11 月１日　消防吏員５名を採用。
昭和 50 年２月 19 日　日本損害保険協会より救急車贈呈を受け、霧島分遣所に配置する。
昭和 50 年４月１日　消防吏員２名を採用し、合計 117 名となる。
昭和 50 年 11 月 14 日　局線集中応答装置及び通話録音装置を購入。中央署に配置する。
昭和 51 年４月３日　日本損害保険協会より救急車の贈呈を受け、隼人分遣所に配置する。
昭和 51 年 10 月 24 日　国分。隼人ライオンズクラブより広報車（トヨタ　ハイエース 15 名乗り）の贈呈を受け、中央署に配置する。
昭和 52 年４月１日　農業気象観測廃止。
昭和 52 年５月 27 日　国分地区第１少年消防クラブ発足（向花小）。
昭和 52 年８月 20 日　ポンプ自動車（トヨタ　ランドクルーザ 1977 年型Ａ２級ＢＤ−１）を購入し、中央署に配置する。
昭和 52 年 10 月 20 日　消防本部訓練用地（358 ㎡）購入。
昭和 53 年 10 月 23 日　初代・林昌治管理者の勇退に伴い、第二代管理者に国分市長・谷口義一氏が就任。
昭和 53 年 11 月 24 日　水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ−Ｄ型）購入し、中央署に配置する。
昭和 54 年４月１日　消防吏員２名を採用。
昭和 54 年７月１日　消防吏員２名を採用。
昭和 54 年 10 月５日　日本損害保険協会より救急車１台（2B 型）の寄贈を受け、中央署に配置する。
昭和 54 年 10 月 13 日　日本防火協会より広報車１台（婦人防火協力会）の寄贈を受け、本部に配置する。
昭和 54 年 12 月 15 日　本部庁舎の増改築を行う。（238.39 ㎡）
昭和 55 年４月１日　消防吏員５名を採用。
昭和 55 年８月 11 日　北消防署に気象観測機器を購入し設置する。
昭和 55 年 10 月１日　大口市外三町消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。
昭和 55 年 11 月 26 日　株式会社タイヨーより救急車の贈呈を受け、中央消防署に配置する。

昭和 55 年 12 月 22 日　中央消防署に屈折梯子付消防ポンプ自動車を購入し配置する。
昭和 56 年５月 21 日　福山分遣所に気象観測機器を購入し配置する。
昭和 56 年９月 25 日　日本消防協会より救急車の寄贈を受け、福山分遣所に配置する。
昭和 56 年 11 月 22 日　国分・隼人ライオンズクラブより指令車１台の寄贈を受け、消防本部に配置する。
昭和 56 年 12 月１日　消防長・福留正男氏退任。
昭和 56 年 12 月１日　消防長・川東文雄氏就任。
昭和 56 年 12 月 25 日　指揮連絡車１台を購入し、消防本部庶務課に配置する。
昭和 57 年６月 27 日　中央消防署に気象観測機器を購入し、設置する。
昭和 57 年 11 月４日　隼人分遣所の水槽付消防ポンプ自動車Ａ２級（Ｉ-A型）更新。
昭和 58 年４月１日　消防吏員４名を採用。
昭和 58 年 12 月 22 日　指揮連絡車１台を購入し、消防本部警防課に配置する。
昭和 59 年１月１日　垂水市と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。
昭和 59 年１月 10 日　消防長・川東文雄氏退任。（国分市総務課参事へ）
昭和 59 年１月 10 日　消防長・岡元光則氏就任。
昭和 59 年７月 17 日　国分地区幼少年消防クラブ連絡協議会発足。
昭和 59 年８月 28 日　日本消防協会より軽可搬ポンプ２台の寄贈を受け、国分市・隼人町に配置する。
昭和 59 年 11 月 14 日　霧島分遣所の水槽付消防ポンプ自動車Ａ２級（Ｉ-A型）更新。
昭和 60 年８月 23 日　日本消防協会より救急車と軽可搬ポンプ４台の寄贈を受け、救急車を霧島分遣所へ配置し、軽可搬ポンプは国分・隼人の婦人防火クラブに配置する。
昭和 60 年９月１日　日本防火協会会長・笹川良一氏を迎え、幼少年と婦人防火のつどいを開催する。
昭和 60 年 12 月９日　北消防署の消防ポンプ自動車Ａ２級（ＣＤ-Ｉ型）更新。
昭和 61 年４月１日　消防吏員３名を採用。
昭和 61 年５月 25 日　北消防署へ国分ロータリークラブより 10 周年記念事業の一環としてホンダ 61 年式（1200cc）指令車寄贈。
昭和 61 年 10 月１日　北消防署庁舎改修。
昭和 61 年 11 月 25 日　福山分遣所の消防ポンプ自動車Ａ２級（ＣＤ-Ｉ型）更新。
昭和 62 年３月 31 日　消防吏員１名を採用。
昭和 62 年８月 19 日　米丸功氏より救助訓練塔の寄贈を受け、中央署に設置する。
昭和 62 年９月９日　コーアガス鹿児島より国分支店開設記念として救急車１台の寄贈を受け、中央署に配置する。
昭和 62 年 10 月１日　大隅曽於地区消防組合と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。
昭和 62 年 12 月 25 日　救助工作車Ⅱ型を購入し中央署に配置する。
昭和 63 年１月 10 日　消防長・岡元光則氏退任。（国分市総務課参事へ）
昭和 63 年１月 10 日　消防長・西元三一氏就任。
昭和 63 年３月 16 日　日本損害保険協会より救急車２Ｂ型１台の寄贈を受け、北消防署に配置する。
昭和 63 年４月１日　宮崎県都城北諸県広域市町村圏事務組合消防本部と火災その他の災害時における相互応援協定を結ぶ。
昭和 63 年５月 10 日　㈶全国消防協会より消防機器の改良開発により会長賞受賞。
昭和 63 年 12 月 30 日　北消防署の屈折梯子付消防ポンプ自動車老朽の為、30ｍ級はしご車と買替え配置する。
平成元年３月 31 日　消防吏員９名退職。内２名は定年退職、７名は高齢化対策により管内市町役場へ転出。

平成元年４月１日　消防吏員 10 名を採用(欠員採用)。実人員 119 名。
平成元年４月 19 日　全国消防協会主催の 62 年度消防機器開発コンクールで急流「せき止め器」が秀に選ばれ科学技術庁長官賞を受賞。
平成元年５月 30 日　組合消防発足 20 周年に当たり、記念式典を行う。
平成元年９月８日　屈折梯子付消防ポンプ自動車（55 年購入、中央消防署）の第１回オーバーホールを実施。
平成元年 12 月 15 日　消防長・西元三一氏退任。（国分市総務課へ）
平成元年 12 月 15 日　消防長・西村隆吉氏就任。
平成元年 12 月 27 日　中央消防署の消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ型）更新。
平成２年２月１日　日本自動車工業会より救急車２Ｂ型１台の寄贈を受け、隼人分遣所へ配置。
平成２年４月１日　消防吏員９名が高齢化対策により退職し管内市町役場へ転出。新たに消防吏員７名を採用（欠員補充）。実人員 117 名。
平成２年６月 30 日　マイクロバス 26 名乗り（三菱）を購入。消防本部に配置する。
平成２年７月 22 日　消防庁長官より表彰旗を国分市消防団と合同受賞（平成２年３月８日付）により受賞式典を行う。
平成２年 10 月 31 日　中央消防署の水槽付消防ポンプ自動車更新。
平成３年３月 25 日　国分調剤薬局の寺脇康文氏より北消防署に訓練塔の寄贈を受ける。
平成３年４月１日　消防吏員 9 名が高齢化対策により退職し、管内市町役場へ転出。新たに消防吏員 12 名を採用（欠員補充）。実人員 120 名。
平成３年６月１日　新たに消防吏員１名を採用。実人員 121 名。
平成３年９月 23 日　ホンダプリモ国分の森田和哉氏より中央消防署査察車としてホンダ３年式（660cc）の寄贈を受ける。
平成３年 11 月 23 日　消防本部へ国分・隼人ライオンズクラブ 30 周年記念事業の一環として、トヨタ３年式（1500cc）指令車の寄贈を受ける。
平成３年 12 月 18 日　広報車として消防本部にニッサン３年式 10 人乗り（3000cc）を購入し配置する。
平成４年２月 15 日　水難救助用ボートを購入し中央消防署に配置する。
平成４年４月１日　消防吏員４名を採用（欠員補充）。実人員 121 名。
平成４年 12 月 27 日　福山分遣所救急車（２Ｂ型）を更新のため購入し配置する。
平成５年１月 18 日　消防本部指揮連絡車（トヨタ　クラウンワゴン）を更新のため購入し配置する。
平成５年２月 27 日　救急処置範囲拡大に伴い救急７点セットを購入し中央署へ配置する。
平成５年３月８日　職員定数条例を改正。定数を 122 名から 138 名とする。
平成５年 11 月２日　住宅防火診断用パーソナルコンピュータを購入し消防本部へ配置する。
平成５年 12 月６日　指揮本部車（四輪駆動車）を更新。
平成６年１月１日　消防長・西村隆吉氏退任。（国分市市民課へ）
平成６年１月１日　消防長・古賀保氏就任。
平成６年３月 21 日　救急モニター（救急７点セット）を購入し、隼人分遣所へ配置する。
平成６年４月１日　消防吏員 10 名を採用（増員分６名、補充４名）する。実人員 126 名となる。
平成６年 12 月 27 日　長島企業グループ（代表・長島公佑氏）より２Ｂ型救急車（トヨタハイエース）の寄贈を受け、中央消防署へ配置する。ジャングルパーク号と命名する。
平成６年 12 月 27 日　本部査察車（トヨタカルディナ）を更新。
平成７年１月 17 日　隼人分遣所の救急車（２Ｂ型トヨタハイエース）を更新。
平成７年２月 16 日　隼人分遣所のタンク車（水－Ｉ－Ａ）を更新。

平成７年３月１日　救急モニター（救急７点セット）を購入し北消防署へ配置する。
平成７年４月１日　消防吏員７名を採用（増員分５名、補充２名）する。実人員 132 名となる。
平成７年８月 24 日　日本船舶振興会より査察車（日産ＡＤバン）の寄贈を受け本部予防課へ配置する。
平成７年 10 月 18 日　中央消防署屈折梯子車（16m級）を 38m級梯子付消防車に更新。
平成８年３月１日　救急モニター（救急７点セット）を購入し霧島分遣所へ配置する。
平成８年４月１日　消防吏員６名採用（増員分）。実人員 138 名。
平成８年５月 23 日　平成８年度鹿児島県総合防災訓練が国分市海浜公園周辺で実施される。
平成８年７月 18 日　第 25 回九州地区消防救助技術指導会を当消防本部で開催のため準備を進めてきたが、当日、台風６号のため中止となる。
平成８年 11 月 26 日　霧島分遣所の救急車（２Ｂ型トヨタハイエース）を更新。
平成８年 12 月 10 日　霧島分遣所のタンク車（水－Ｉ－Ａ）を更新。
平成９年１月１日　消防長・古賀保氏参事に就任。
平成９年１月１日　消防長・池田綱雄氏就任。（国分市企画課より）
平成９年３月 25 日　救急モニター（救急７点セット）を購入し福山分遣所へ配置する。
平成９年３月 31 日　古賀保氏（参事）定年退任。
平成９年４月 28 日　本部・中央署庁舎の避難地用地購入。（取得価格 525,272 千円）
平成９年８月 26 日　日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央消防署へ配置する。「火災保険号」と命名する。
平成９年 11 月 28 日　北署ポンプ車（四輪駆動車）を更新。
平成 10 年３月 31 日　消防吏員１名が定年退職する。
平成 10 年４月１日　消防吏員２名を採用（欠員補充）。実人員 138 名となる。
平成 10 年 11 月５日　福山分遣所の消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ四輪駆動車）を更新。
平成 11 年３月 31 日　消防吏員１名が定年退職する。
平成 11 年３月 31 日　消防本部（署）が新庁舎落成。４月 27 日に移転する。
平成 11 年４月１日　機構改革を行い本部に予防課を新設するとともに、警防課に救急救助係及び通信指令室を設ける。
平成 11 年４月 27 日　消防緊急通信指令システム（自治省消防庁Ⅱ型）の運用開始。
平成 11 年５月 24 日　国分地区消防組合設立 30 周年ならびに庁舎落成記念式典を行う。
平成 11 年９月７日　財団法人日本消防協会より可搬消防ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。
平成 11 年 10 月 13 日　中央消防署の消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ）を更新。
平成 11 年 12 月９日　北消防署の指揮連絡車を更新。
平成 12 年３月４日　東九州自動車道（国分ＩＣ～隼人東ＩＣ間）の開通に伴い、救急・消防業務を開始する。
平成 12 年４月１日　消防長・池田綱雄氏退任。（国分市市民福祉部長へ）
平成 12 年４月１日　消防長・福永洚氏就任。
平成 12 年６月 26 日　救急モニターを購入し中央消防署へ配置する。
平成 12 年９月 20 日　北消防署の梯子車（昭和 63 年購入）をオーバーホール（第１回目）
平成 12 年 10 月 11 日　福山分遣所の救急車（２Ｂ型トヨタ）を更新。
平成 13 年３月 31 日　消防吏員２名が定年退職する。
平成 13 年４月１日　消防吏員４名を採用（欠員補充）。実人員 138 名となる。
平成 13 年 11 月 10 日　国分・隼人ライオンズクラブ（結成 40 周年）より査察車（トヨタカルディナ）の寄贈を受け本部に配置する。

平成 13 年 11 月 29 日　中央消防署の２Ｂ型救急車の更新に伴い、高規格救急車（トヨタハイメディック）及び資機材を購入し配置する。
平成 13 年 12 月 13 日　隼人分遣所の救急車（平成７年購入２Ｂ型）を更新。
平成 13 年 12 月 19 日　中央消防署の救助工作車Ⅱ型（昭和 62 年購入）を更新。
平成 13 年 12 月 19 日　消防吏員１名が中途退職する。
平成 14 年２月１日　中央消防署高規格救急車の運用を開始する。
平成 14 年３月２日　東九州自動車道（国分ＩＣ～末吉・財部ＩＣ間）の開通に伴い、救急・消防業務を開始する。
平成 14 年３月 31 日　消防吏員１名が定年退職する。
平成 14 年４月１日　消防吏員２名を採用（欠員補充）。実人員 138 名となる。
平成 14 年 10 月９日　第二代・谷口義一管理者の勇退に伴い、第三代管理者に国分市長、鶴丸明人氏が就任。
平成 15 年２月 12 日　福山分遣所庁舎の増改築を行い落成。
平成 15 年３月 31 日　消防吏員２名が定年退職する。
平成 15 年３月 31 日　消防長・福永洚氏退任。（国分市収入役へ）
平成 15 年４月１日　消防長・中馬達己氏就任。（国分市市民福祉部長より）
平成 15 年９月 30 日　エアーテントを購入。
平成 15 年 11 月 27 日　北消防署の救急車（平成７年購入）を２Ｂ型高規格対応に更新。
平成 16 年３月 15 日　霧島分遣所の増改築を行い落成。
平成 16 年３月 31 日　資機材搬送車を購入し配備する。
平成 16 年３月 31 日　消防吏員１名が定年退職する。
平成 16 年７月９日　第 33 回九州地区消防救助技術指導会が、国分市海浜公園グランドで開催。
平成 16 年 10 月１日　消防吏員２名を採用（欠員補充）。実人員 138 名となる。
平成 16 年 11 月２日　旧消防本部中央消防署を解体。
平成 16 年 12 月 13 日　霧島分遣所の救急車（平成８年購入）を２Ｂ型高規格対応に更新。
平成 16 年 12 月 20 日　中央消防署の梯子車（平成７年購入）をオーバーホール。（第１回目）
平成 17 年３月 31 日　消防吏員２名が定年退職する。
平成 17 年４月１日　消防吏員２名を採用（欠員補充）。実人員 138 名となる。
平成 17 年 10 月１日　消防吏員３名を採用。実人員 141 名となる。
平成 17 年 11 月７日　１市６町による行政合併に伴い、国分地区消防組合を解散。新たに旧溝辺町、旧横川町が加わり、単独消防として名称が霧島市消防局となる。旧溝辺町 14 名、旧横川町９名、合計 23 名と市職員３名を加え、条例定数 176 名に対し実人員 167 名となる。同時に機構改革を行い、警防課の通信指令室を情報司令課に昇格し、警防課へ新たに消防団係を設ける。市町合併に伴い管内が拡大されたことにより、それに対応する消防指令センターの改修を行い、同日運用開始。
平成 17 年 11 月 29 日　初代霧島市長に前田終止氏就任。
平成 17 年 12 月 31 日　消防吏員１名が早期退職。実人員 166 名となる。
平成 18 年１月 31 日　救助工作車Ⅱ型を購入し中央消防署に配置する。従来の救助工作車Ⅱ型（平成 13 年購入）を溝辺分遣所に配置する。
平成 18 年３月 25 日　２Ｂ型高規格対応救急車を購入し隼人分遣所に配置する。従来の救急車（平成 13 年度購入）を溝辺分遣所に配置する。

平成 18 年３月 31 日　消防吏員９名退職（定年退職２名、早期退職７名）。
平成 18 年４月１日　消防吏員 17 名を採用。新たに市職員２名を加え、実人員 176 名となる。
平成 18 年５月９日　消防吏員１名退職。実人員 175 名となる。
平成 18 年 10 月 31 日　消防局長・中馬達己氏退任。（霧島市社会福祉協議会へ）
平成 18 年 11 月１日　消防局長・中村昭氏就任。（霧島市福山総合支所長より）
平成 19 年３月 31 日　消防吏員６名が定年退職する。
平成 19 年４月１日　消防吏員７名を採用（欠員補充）。実人員 176 名となる。
平成 19 年４月３日　鎌田建設グループから無線中継車と消防団連絡車の寄贈を受ける。
平成 19 年４月５日　隼人分遣所、新庁舎へ移転する。
平成 19 年 12 月 14 日　高規格救急車を２台購入し、溝辺分遣所と横川分遣所に配置する。
平成 20 年３月 31 日　消防吏員８名が退職する（定年退職６名、早期退職２名）。
平成 20 年４月１日　消防吏員８名を採用（欠員補充）。実人員 176 名となる。
平成 20 年９月 27 日　静岡県、谷津氏から救助資材の寄贈を受ける。
平成 20 年 10 月 22 日　霧島市役所に１名出向。実人員 175 名となる。
平成 20 年 12 月 15 日　北消防署梯子車（昭和 63 年購入）をオーバーホール。（第２回目）
平成 21 年１月 15 日　高規格救急車を購入し、中央署に配置する。
平成 21 年３月 13 日　消防吏員１名が退職する。実人員 174 名となる。
平成 21 年３月 31 日　消防局長・中村昭氏退任。他に消防吏員２名が退職する（定年退職１名、早期退職１名）。実人員 171 名となる。
平成 21 年４月１日　消防局長・後庵博文氏就任（中央署長より）。
平成 21 年４月１日　消防吏員１名を採用（欠員補充）。実人員 172 名となる。
平成 21 年５月１日　消防吏員３名を採用（欠員補充）。実人員 175 名となる。
平成 21 年６月 30 日　指揮隊車を配置（松山氏より寄贈）。
平成 21 年９月 30 日　消防吏員２名が退職する。実人員 173 名となる。
平成 21 年 10 月 20 日　北消防署新庁舎へ移転する。
平成 21 年 12 月 14 日　中央消防署の梯子車（平成７年購入）をオーバーホール（第２回目）。
平成 21 年 12 月 31 日　消防吏員１名が退職する。実人員 172 名となる。
平成 22 年３月 31 日　消防吏員９名が退職する（定年退職５名、早期退職４名）。
平成 22 年３月 31 日　中央消防署のタンク車（水-Ⅱ）を更新。横川分遣所のタンク車をポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）へ更新。
平成 22 年４月１日　消防吏員 13 名を採用（欠員補充）。実人員 176 名となる。
平成 22 年 11 月 26 日　統合型位置情報通知装置を設置する。
平成 22 年 12 月 14 日　中央消防署の高規格救急車を更新。
平成 23 年２月 28 日　消防吏員１名が退職する。実人員 175 名となる。
平成 23 年３月 14 日　東日本大震災（３月 11 日）に伴い、緊急援助隊２隊７名を派遣する。
平成 23 年３月 29 日　横川分遣所の改修を行い、落成。
平成 23 年３月 30 日　隼人分遣所のタンク車（水Ⅰ-Ａ）を更新。
平成 23 年３月 31 日　消防吏員６名が定年退職する。
平成 23 年３月 31 日　消防局長・後庵博文氏退任。
平成 23 年４月１日　消防局長・田中義春氏就任（消防局総務課長より）。
平成 23 年４月１日　消防吏員６名を採用（欠員補充）。実人員 175 名となる。
平成 23 年５月 26 日　鹿児島県防災訓練が牧園町霧島高原国民休養地及び周辺地域で実施される。

平成 23 年８月 26 日　国分隼人ライオンズクラブ（結成 50 周年）より査察車（トヨタサクシード）の寄贈を受け本部に配置。
平成 23 年９月１日　職員条例定数を改正。定数を 176 名から 181 名とする。
消防吏員を５名採用。実人員 180 名となる。
平成 23 年９月 30 日　消防吏員１名が退職する。実人員 179 名となる。
平成 24 年２月 23 日　溝辺分遣所のタンク車（水-Ⅱ）を更新。
平成 24 年３月 26 日　福山分遣所のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
平成 24 年３月 28 日　北署のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
平成 24 年３月 31 日　消防吏員６名が退職する（定年退職２名、早期退職４名）。
平成 24 年４月１日　消防吏員７名を採用（欠員補充）。実人員 180 名となる。
平成 24 年８月２日　消防吏員１名が退職する。実人員 179 名となる。
平成 25 年１月 31 日　中央署の査察車を廃車。
平成 25 年２月 20 日　北署の救急車を更新。
平成 25 年３月５日　北署の梯子車（先端屈折式 35ｍ級梯子車）を更新。
平成 25 年３月 18 日　中央署のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
平成 25 年３月 21 日　霧島分遣所のタンク車（水Ⅰ-Ａ）を更新。
平成 25 年３月 31 日　消防吏員７名が退職する（定年退職３名、早期退職４名）。
平成 25 年３月 31 日　消防局長・田中義春氏退任。
平成 25 年４月１日　消防局長・塚田修二氏就任（中央署長より）。
平成 25 年４月１日　消防吏員９名採用（欠員補充）。実人員 181 名となる。
平成 25 年 11 月 25 日　自治体消防 65 周年消防団 120 周年記念事業（東京）。
平成 25 年 12 月 20 日　中央署、霧島分遣所の高規格救急車を更新。
平成 26 年１月 30 日　北署のタンク車（水Ⅰ-Ａ）を更新。
平成 26 年２月 25 日　総務省消防庁より緊急消防援助隊用車両として機動連絡車配備。
平成 26 年３月 31 日　消防局長・塚田修二氏退任。
平成 26 年４月１日　消防局長・木佐貫誠氏就任（消防局次長より）。
平成 26 年４月１日　霧島市役所総務部安心安全課に職員１名出向。
平成 26 年４月１日　消防吏員２名採用（欠員補充）。実人員 181 名となる。
平成 26 年 12 月８日　中央署の梯子車（平成７年 38ｍ級）を 40ｍ級梯子車に更新。
平成 27 年３月 31 日　消防吏員２名が定年退職する。
平成 27 年４月１日　消防吏員２名採用（欠員補充）。実人員 181 名となる。
平成 27 年５月 31 日　消防吏員２名が退職する。実人員 179 名となる。
平成 27 年 12 月４日　浜田医院の補助により、隼人分遣所の高規格救急車を更新。
平和リース株式会社の補助により、横川分遣所の高規格救急車を更新。
平成 27 年 12 月 15 日　消防吏員１名が退職する。実人員 178 名となる。
平成 28 年３月 31 日　消防吏員５名が退職する（定年退職４名、普通退職１名）。実人員 173 名となる。
平成 28 年３月 31 日　消防局長・木佐貫誠氏退任。
平成 28 年４月１日　消防局長・馬場勝芳氏就任（霧島市農林水産部長より）。
平成 28 年４月１日　消防吏員７名採用（欠員補充）。実人員 180 名となる。
平成 28 年４月１日　消防救急デジタル無線運用開始及び高機能消防指令システム更新。
平成 28 年４月 14 日　熊本地震（4 月 14 日前震、４月 16 日本震）に伴い緊急消防援助隊３隊 22 名を派遣する。

平成 28 年 12 月２日　中央署の高規格救急車（救急３）を更新。
平成 28 年 12 月 20 日　後方支援車（マイクロバス）を更新。
平成 29 年３月 31 日　消防吏員１名が定年退職する。実人員 179 名となる。
平成 29 年４月１日　消防吏員２名採用（欠員補充）。実人員 181 名となる。
平成 29 年 12 月１日　溝辺分遣所の高規格救急車を更新。
平成 29 年 12 月 13 日　溝辺分遣所の救助工作車を更新。
平成 29 年 12 月 19 日　消防吏員１名が退職する。実人員 180 名となる。
平成 30 年３月 31 日　消防局長・馬場勝芳氏退任。
平成 30 年３月 31 日　消防吏員２名が退職する。実人員 178 名となる。
平成 30 年４月１日　消防局長・久保隆義氏就任（市民環境部長より）。
平成 30 年４月１日　消防吏員２名採用（欠員補充）及び事務吏員が１名減となり、実人員 180 名となる。
平成 30 年 12 月 31 日　消防吏員１名が退職する。実人員 179 名となる。
平成 31 年２月８日　北署の指揮車を更新。
平成 31 年２月 22 日　総務連絡車を更新。
平成 31 年３月１日　資機材搬送車を更新。
平成 31 年３月 31 日　消防局長・久保隆義氏退任。
平成 31 年３月 31 日　消防吏員２名が退職する。実人員 177 名となる。
平成 31 年４月１日　消防局長・堀切昇氏就任（上下水道部長より）。
平成 31 年４月１日　霧島市職員定数条例の改正により、定数を 181 名から 184 名とする。
平成 31 年４月１日　消防吏員５名を採用（欠員補充）及び市長部局（財政課）出向者１名で、実人員 183 名となる。
令和元年６月 28 日　北消防署北署の梯子車（平成 25 年購入）をオーバーホール（１回目）。
令和元年９月 27 日　平和リース株式会社から一部補助を受け、福山分遣所の高規格救急車を更新。
令和元年 11 月 14 日　第 30 回全国消防長会警防防災委員会を霧島市（ホテル京セラ）で開催。
令和２年２月 26 日　有限会社万膳酒造から一部補助を受け、中央署の高規格救急車（救急１）を更新。
令和２年２月 29 日　消防吏員（市長部局出向者）１名が退職する。
令和２年３月 31 日　消防局長・堀切昇氏退任。
令和２年３月 31 日　消防吏員２名が定年退職する。実人員 181 名となる。
令和２年４月１日　消防局長・喜聞浩志氏就任（消防局次長より）。
令和２年４月１日　霧島市職員定数条例の改正により、定数を 184 名から 189 名とする。
令和２年４月１日　消防吏員５名採用。実人員 186 名となる。
令和２年８月 25 日　ホワイトシャッタープロジェクト事業に関する協定書締結。
令和２年 10 月１日　鹿児島県消防長会へ１名出向。
令和２年 11 月 26 日　隼人分遣所の高規格救急車（救急２）を更新。
令和３年３月 12 日　中央署の救助工作車を更新。
令和３年３月 31 日　消防局長・喜聞浩志氏退任。
令和３年３月 31 日　消防吏員３名が定年退職する。実人員 183 名となる。
令和３年４月１日　消防局長・堀ノ内剛氏就任（消防局次長より）。
令和３年４月１日　消防吏員４名採用。187 名となる。
令和３年 11 月 11 日　北署の高規格救急車（救急５）更新（ヤマグチ株式会社より一部補助）。
令和４年３月 28 日　消防本部警防課のミニ消防自動車（軽積載車）更新。

令和４年３月 31 日　　消防局長・堀ノ内剛氏退任。
令和４年３月 31 日　　消防吏員５名が退職（定年退職）する。実人員 184 名となる。
令和４年４月１日　　消防局長・細山田孝美氏就任（消防局次長より）。
令和４年４月１日　　消防吏員４名採用。実人員 186 名となる。
令和４年 11 月 11 日　中央署の高規格救急車（救急３）を更新。
令和５年３月７日　　中央消防署のタンク車（水-Ⅱ）を更新。
令和５年３月 16 日　　横川分遣所のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
令和５年３月 31 日　　消防吏員３名が退職する。実人員 183 名となる。
令和５年４月１日　　消防吏員３名採用。186 名となる。
令和５年 11 月 15 日　霧島分遣所、横川分遣所の高規格救急自動車を更新。
令和６年３月 31 日　　消防吏員２名が退職する。実人員 184 名となる。
令和６年３月 31 日　　消防局長・細山田孝美氏退任
令和６年４月１日　　消防局長・川﨑敏朗氏就任（消防局次長より）。
令和６年４月１日　　消防吏員２名採用。実人員 186 名となる。
令和６年９月 23 日　　消防吏員１名が退職する。実人員 185 名となる。
令和７年１月 27 日　　隼人分遣所の高規格救急車（救急２）を更新。
令和７年１月 30 日　　隼人分遣所のタンク車（水－Ⅰ）を更新。
令和７年２月３日　　福山分遣所、庁舎移転。
令和７年２月 25 日　　福山分遣所のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
令和７年２月 26 日　　北署のポンプ車（ＣＤ-Ⅰ）を更新。
令和７年３月 19 日　　溝辺分遣所のタンク車（水-Ⅱ）を更新。
令和７年３月 31 日　　消防吏員７名が退職する。実人員 176 名となる。
令和７年４月１日　　消防吏員５名採用。181 名となる。

３．署所の配置

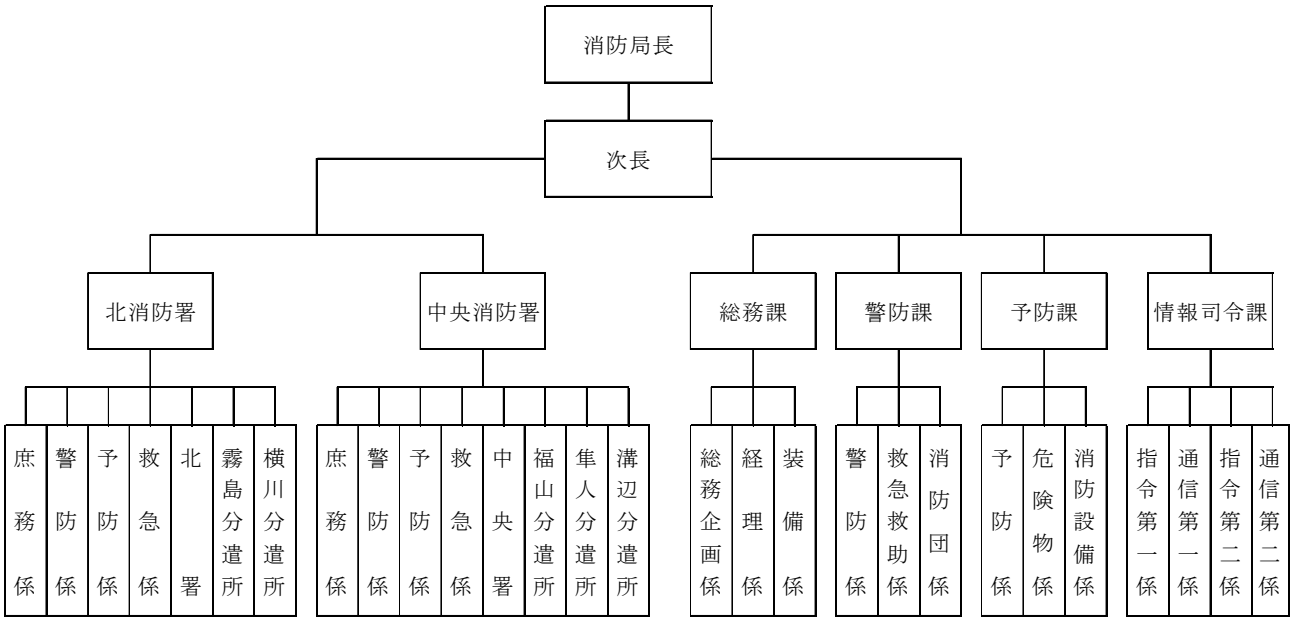
令和 ７．３．31 現在

（消防庁舎の概要）

区分 / 種別		所在地	構造	敷地面積	延床面積	建築面積
消防本部		霧島市国分中央三丁目41番5号	鉄筋コンクリート4階建（庁舎） 鉄筋コンクリート6階建（訓練塔）	10,497.00㎡（避難地駐車場を含む）	4,132.63㎡	1,477.45㎡
中央消防署管轄	中央署	霧島市国分中央三丁目41番5号（消防本部に併置）	鉄筋コンクリート4階建て	10,497.00㎡（避難地駐車場を含む）	4,132.63㎡	1,477.45㎡
	隼人分遣所	霧島市隼人町西光寺119番地1	鉄筋コンクリート平屋建て	3,818.98㎡	439.00㎡	463.50㎡
	福山分遣所	霧島市福山町福山5290番地61　2階	鉄筋コンクリート2階建て	930.00㎡	535.79㎡	535.79㎡
	溝辺分遣所	霧島市溝辺町麓1616番地39	鉄筋コンクリート平屋建て（訓練塔含む）	3,718.58㎡	429.40㎡	377.98㎡
北消防署管轄	北署	霧島市牧園町高千穂3855番地122	鉄筋コンクリート２階建て（車庫棟・訓練塔含む）	8,442.00㎡	1,917.23㎡	1,065.93㎡
	霧島分遣所	霧島市霧島田口495番地	鉄筋コンクリート平屋建て	880.87㎡	197.65㎡	197.65㎡
	横川分遣所	霧島市横川町上ノ3414番地1	鉄筋コンクリート平屋建て	2,258.00㎡	233.00㎡	235.00㎡

４．消防局の組織

令和 7. 3. 31 現在



５．消防職員の配置状況

※（ ）は、次長兼務

区分＼職・階級		消防吏員							計
		消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	
消防局長		1							1
次長			2						2
計		1	2	0	0	0	0	0	3
消防本部	総務課		(1)	2		3			5
	警防課		1	1	3	2	1		8
	予防課		1	2		2	1		6
	情報司令課		1	2	4	4			11
	出向・研修				1	1	2		4
	計	0	3	7	8	12	4	0	34
中央消防署	署長		(1)						
	副署長			1					1
	予防係		1		1	1	1		4
	中央署			5	4	14	10	12	45
	隼人分遣所			3	4	6	4		17
	福山分遣所			3	2	2	3	1	11
	溝辺分遣所			3	4	4	6		17
	計	0	1	15	15	27	24	13	95
北消防署	署長		1						1
	副署長			1					1
	北署			4	4	6	5	8	27
	霧島分遣所			3	2	3	3		11
	横川分遣所			3	2	3	2	1	11
	計	0	1	11	8	12	10	9	51
合計		1	7	33	31	51	38	22	183

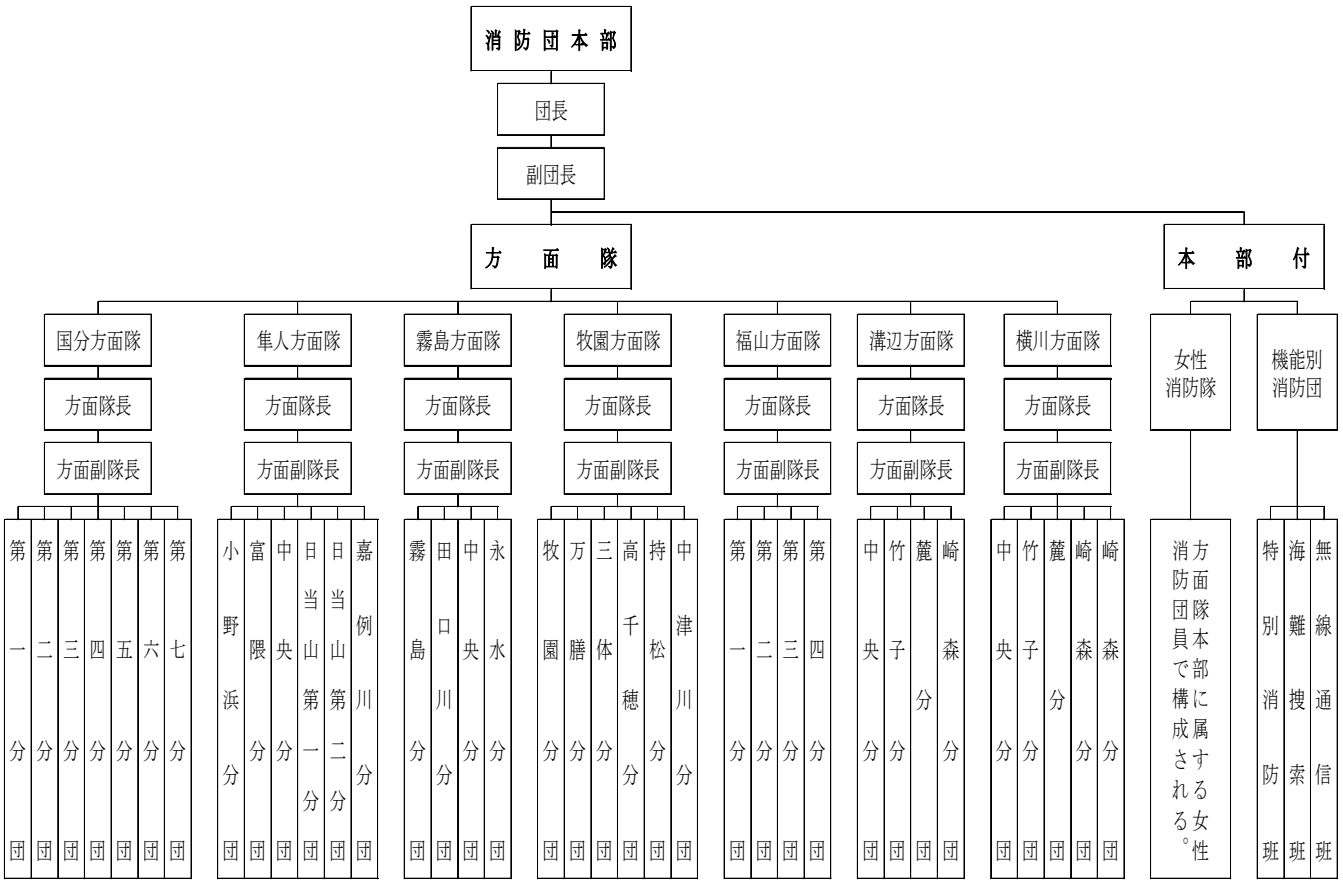
６．消防力の現勢

令和7.3.31現在

種別＼所属	本部	中央署	隼人分遣所	福山分遣所	溝辺分遣所	北署	霧島分遣所	横川分遣所	計
はしご車		1				1			2
タンク車		1	1		1	1	1		5
ポンプ車		1		1		1		1	4
救急車	1	2	1	1	1	1	1	1	9
広報車	1								1
指揮車	1	1				1			3
救助工作車		1			1				2
後方支援車	1								1
査察車	1								1
搬送車	2								2
連絡車	3								3
合計	10	7	2	2	3	5	2	2	33

（単位：台）

７．消防団の組織



８．消防局財政

（１）市予算と消防予算

（単位：千円）

区分	令和６年度当初 予　算　額
市　一　般　会　計	69,580,000
消　　防　　費 （水防防災費・災害対策費は除く）	2,171,778
比　　率	3.12%

（２）消防費の内訳

（単位：千円）

区　　分	令和６年度当初予算額
常　備　消　防　費	1,709,683
非　常　備　消　防　費	176,672
消　防　施　設　費	285,423
計	2,171,778

（３）消防費と人口比率

（単位：円）

区分	消防費	１世帯当たり （62,694世帯）	１人当たり （122,798人）
予算額	2,171,778,000	34,641	17,686

９．消防相互応援協定締結状況

協定先の市町	協定の内容	締結年月日
○ 鹿児島県	鹿児島県内消防相互応援協定	平成30年12月20日
○ 鹿児島県	鹿児島県消防・防災ヘリコプター応援協定	平成10年6月26日
○ 鹿児島県ドクターヘリ	鹿児島県ドクターヘリ運行事業における救急搬送に関する相互応援協定	平成23年12月22日
○ 姶良市	消防相互応援協定	平成22年3月23日
○ 伊佐湧水消防組合	消防相互応援協定	平成21年2月2日
○ 垂水市	消防相互応援協定	平成17年12月1日
○ 大隅曽於地区消防組合	消防相互応援協定	平成17年12月1日
○ さつま町	消防相互応援協定	平成18年2月1日
○ 西諸広域行政事務組合	消防相互応援協定	平成17年12月1日
○ 都城市	消防・救急業務相互応援協定	平成18年1月1日
○ 大隅肝属地区消防組合	消防・救急相互応援協定	平成27年7月13日
○ 離島市町村・消防組合	救急業務応援協定	平成17年12月27日
中種子町，西之表市，伊仙町，三島村		平成18年1月10日
徳之島町，天城町，南種子町，十島村		平成18年1月20日
和泊町，知名町，与論町，屋久島町		平成18年2月28日
大島地区消防組合		平成19年10月1日
○ 大隅曽於地区消防組合	東九州自動車道における消防相互応援協定	平成17年11月7日
○ 姶良市	隼人道路における消防相互応援協定	平成22年3月23日
○ 関係市町村	九州縦貫自動車道における消防相互応援協定	平成28年9月24日
○ 霧島警察署	非常災害相互応援協定（横川署廃止に伴い再締結）	令和2年10月1日
○ 姶良・伊佐地域振興局,霧島警察署	妙見トンネルにおける事故発生時の通報・出動及び施設管理に関する協定	平成23年9月1日
○ 永井クレーン工業株式会社	災害（事故）発生時における救護作業要請	平成17年12月1日
○ 有限会社池上クレーン	災害（事故）発生時における救護作業要請	平成26年2月10日
○ 鹿児島空港	消火救難活動に関する協定	平成31年3月1日
○ 姶良保健所	新型コロナウィルス感染症の患者の移送に関する取り決め	令和2年4月30日
○ 姶良伊佐地域生コンクリート協同組合	災害時等における消防用水等の供給に関する協定	令和5年11月13日
○ 鹿児島県姶良保健所	一類感染症の患者の移送に関する協定	令和6年3月5日
○ 株式会社西部システム	災害時等における救助活動連携に関する協定	令和6年5月30日